



FKC

The Furano Kotobuki College

Times

富良野市教育委員会教育振興課社会教育係

電話 0167-39-2318

文責：上用 眞一郎

冬もそろそろ終わり、そして卒業式・・・

皆さん、この三連休はいかがお過ごしでしたか。

私（達）は、一日目、煙突掃除（妻の最も苦手な仕事）、二日目、7段飾りのお雛様（これが毎回？）、そして三日目は、こどもちいき食堂へ（ことぶきの皆さんがたくさん見えていました。つきたてのお餅がとてもおいしかったです。）

気温は低めでしたが、日差しの強さに春を感じる頃となりました。富良野市での日の出の時刻が6:30、日の入りの時刻が5:15、随分日も長くなりました。

2月も今週で終わり、早3月です。

3月は卒業の月、お別れの月です。ことぶき大学でも別れの時を迎えます。

人生100年、私たち高齢者も新しい出会いを求め、そして、このことぶき大学をいつかは卒業して行きます。

学びには終わりはありません。ことぶき大学の学びの門は、いつでも開かれています！

さて、先日、NHKの番組で「英雄たちの選択」を見ました。この日は、「我が女の見方ならず～情熱の歌人・与謝野晶子の“男女平等”」と題して、「みだれ髪」や「源氏物語訳者」で有名な与謝野晶子を取り上げていました。皆さんの中にもご覧になった方もいると思います。ただ今回は、詩人としてだけでなく評論家としても活躍し、社会に大きな影響を与えた彼女の才能をあらためて再発見しました。

1904年に発表した「君死にたまふことなかれ」、弟が出征する際での反戦の歌です。

「君死にたまふことなかれ」

ああ、弟よ、君を泣く、君死にたまふことなかれ。

末に生れし君なれば 親のなさは勝りしも、

親は刃をにぎらせて 人を殺せと教へしや、

人を殺して死ぬよとて 廿四までを育てしや。

与謝野晶子著より一部抜粋



明治時代の後半、自分の信念に従い、男女平等を訴え、社会の不条理に、反戦を訴え、言論の自由がないこの時代の中で信念を通し続けた明治の歌人、与謝野晶子の人生に触れることができました。

新年度構想

令和7年度のことぶき大学について提案します。

1 学習活動の教室について

7月1日～12月30日まで国勢調査のために図書館3階会議室Ⅰが使用できません。この期間、朝の集い及び学習活動は、文化会館の会議室で行う予定です。

具体的には、

① クラブ学習の教室について

- ・切り絵クラブ：今まで通り図書館3階研修室
- ・絵手紙クラブ：今まで通り図書館2階サークル室2
- ・陶芸クラブ：今まで通りふれあいセンター陶芸室
- ・茶道クラブ：（新）図書館2階の多目的室
- ・書道クラブ：（新）図書館2階の展示ロビー

② この期間での朝の集いは、図書館2階の多目的室で行う予定です。

③ クラブ学習後の午後の活動については、学習内容によって、図書館か文化会館会議室C・Dとなります。



2 視察及び研修旅行について

① 5月28日(水)研修旅行を計画しています。

バスの手配もあり、一日日程で札幌方面を予定しています。(口頭で詳細説明)

② 施設見学・研修として旭川市立大学への一日体験入学及び視察見学を予定しています。日程につきましては、これからです。(山部校との合同の方向で検討中です。)

3 コーラス及び踊りについて

① コーラスは継続します。

② 日本舞踊は、新年度お休みして、「リズムダンス」を検討中です。

この「コーラス」と検討中の「リズムダンス」ですが、事前に希望調査を実施します。

本科、大学院、研究生はどちらかを選択します。是非、第2研究生の皆さんの積極的な参加をお願いします。



4 その他

◎ 学年別研究(課題別)について:楽しくテーマを見つけましょう

◎ 日常会話中心にした手話講座や外国語講座 ◎ ガーデニング講座

◎ リズムダンス講座 ◎ 美味しいコーヒー(紅茶)の淹れ方講座等々

◎ クリスマスコンサート

5 ことぶき大学ロゴ入りトレーナー

検討中です。なかなか恰好いいですよ。



本日、2月26日(水)

◎ 進学希望調査の提出日

◎ クラブ・同好会希望調査の提出日

9時30分 朝の集い

10時00分 卒業式及び新年度構想 ①

卒業式の流れについて

年間計画について

研修旅行について

特色ある教育活動

12時00分 昼食・休憩

13時00分 新年度構想 ②

14時00分 プロジェクトⅩ視聴

15時00分 帰りの集い

自治会役員会

次回、3月12日(水)

9時30分 朝の集い

9時50分 クラブ学習準備

10時00分 クラブ学習最終日

卒業展示の準備及びお食事会

この一年間、クラブ講師の方々には大変お世話になりました。

新年度もよろしくお願い致します。

12時00分 複合庁舎に移動

卒業作品展示の作業

他の団体の展示も予定されていますので展示場所については、近くになってから提案します。

卒業式に関わっての確認

まだ正式ではありません。みなさん確認し、訂正などありましたら事務局までお願いします。

(証書授与式)



1 市民憲章朗唱

山部校

2 送辞 在校生代表(送辞)

富良野校本科3年生 岡本恵子さん

3 卒業生代表の挨拶(答辞)

富良野校本科4年生 高瀬優子さん

富良野校本科4年生 岡野啓子さん

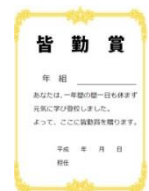
4 皆勤賞・精勤賞の代表

山部校

☆皆勤賞と精勤賞

皆勤賞：欠席なし

精勤賞：欠席日数3日以内



1 皆勤賞

富良野校

◎ 第2研究生 平澤 稔さん

◎ 研究科生 原あけみさん

山部校

◎ 大学院2年生 刑部 顕さん

2 精勤賞

富良野校

金子 健さん、高見保子さん

宮西久子さん、伊藤公雅さん

平澤那子さん、加瀬谷利江さん

伊賀啓子さん、坂本登志江さん

四宮時夫さん、西濱千汐さん

高田江美子さん

山部校

故 黒須勝美 氏を偲んで

2月21日ことぶき大学OBの黒須勝美さんをご逝去されました。現在の「スコープ三味線」を立ち上げたのが黒須さんの学年の皆さんです。2019年3月、ことぶき大学を修了する際、黒須さんから聞いたことを私がまとめ「吾が思い出の記」に掲載しました。黒須さんを偲びここに再掲しました。

ことぶき大学に黒須勝美さんがいたことを私は誇りに思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「小説 黒須勝美」

2019.2.23

専任講師 上用眞一郎

黒須さんとの4年間の思い出を黒須さんの言葉で語ろうと思います。事実とは異なるところもあるかも知れませんが、黒須さんから聞いたことをまとめるつもりでしたが、一部違うこともありそうなので、「小説 黒須勝美」としました。



私、黒須勝美は昭和4年1月7日に生まれました。北見の山の奥深く、冬の間は、山郷の役場までは不通だったので、出生届けが4月7日となっています…

今では自然が破壊されて山には食べ物がないため札幌などの都会でも熊は出てきますが、小さい頃は熊なんてそこらへんにいて当たり前、小学校に行くときは「カンカン カンカン…」缶かんの音を鳴らしながら通ったものです。尋常小学校から高等科に行くには、大変な道のりを歩くことになったのですが、私の家は、昭和17年離農し、苫前郡古潭別に引っ越しをしました。そこには学校も近くにありました。

昭和19年3月20日、尋常高等小学校を卒業しましたが、貧しい農家の家庭で10人の兄弟がおりました。

お分かりの通りこの時代、昭和12年に日中戦争が始まり、昭和16年に太平洋戦争開戦、世界は戦争の真っ只中でした。

兄弟10人うち4名は出兵しましたが、卒業すれば家を出なくてはならずそのための仕事も必要でした。

そこで私は、満州に行くことを自分で決めました。私が15歳の時でした。

あまり体が強い方ではなく、身長は170cm強、体重40kg弱…、今でいえばかなりスマートで恰好よかったのかもしれませんが…

昭和19年4月2日、古潭別の駅で軍歌で見送られ満州への道に向かうことになりました。

しかし、満州に行く前には、訓練がありました。

そこは、「満蒙開拓生荘園義勇軍」になるための予備訓練のようなものでした。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、この満蒙開拓青少年義勇軍とは、日本内地の数え年16歳から19歳の青少年を満州国に開拓民として送り出す制度です。



この「満蒙開拓生荘園義勇軍」の一角に満州高等技術訓練校があり、私はそこに入学しました。システムは軍隊と同じです。運動も勉強も好きな方ではありませんでしたが、毎朝4時起床です。ゲートルを巻き、10kmの道のりを歩きました。勿論軍歌を歌いながら…遅いのは大変なお仕置きが用意されていました……

そのあと朝礼があり30分から40分の訓示がありました。勿論戦争のお話ばかり…内容はお分かりでしょう…

厳しい訓練の連続で、挫折した生徒が何人もおりました。

満州に渡る日の前日、京都東本願寺で1泊、それから下関港から船で満州に向けて出港しました。船は漁船の一番大きいくらいのもの(?) 全員救命胴衣を着ていました。鋼都鞍山に着きました。鞍山は鉄の都(鋼都)の異名があるほど良質の鉄鉱石の鉱脈が発見された場所です。鞍山の名は市街地南郊が2つの山が連なっており、これが馬の乗せる鞍に似ていることで名づけられたそうです。

ここに、満州鉄道が鞍山製鋼所をつくり、さらなる増設のために昭和製鋼所などと合併し、その後昭和製鋼所(満洲製鉄鞍山本社)となった。

ここ鞍山の鉄脈は良質といっても90%の高い純度の鉄鉱石で、日本の鉄のほとんどがこの満州でつくられたということです。この昭和製鋼所は軍事工場でもありましたが、そこには今の工業高校のように全部で10の学科があり、技術者の育成もしていました。

運輸科を希望しましたが採鉄科に入りました。採鉄科には修身公民の精神教育と採鉄学、測量学、土木学、製図、電気や歴史や理科や外国語などの学科もあり勿論体操や武道もありました。

昭和19年7月29日天気は晴れでした。屋上に友達と上がり、北海道はどっちなのかなあと話していたとき、急に空が銀色に輝いたかと思うと、中国四川省の奥地から何とB29爆撃機が飛んできた。もの凄い数でした。100機はいたでしょうか…

この昭和製鋼所を破壊するためです。

ベンゾールといってナフタリンから採る燃料に火がつくと逃げ場がないほどの火の海となった。600もの死体の山、誰なのか区別などつかない。ここには兵隊といっても40~50歳台、私たちは煙幕部隊の一人として、高空からの爆撃を妨害した。煙幕部隊は壕を掘ってナフタリン・タールを燃焼させ、工場の上空を黒煙で覆うという防空作戦を試みた。ナフタリン・タールを1~2メートルのゴムの中で燃やすもので、B29が来る(手旗信号で敵機の方向とその数を示す)とそれを燃やした。

燃やすと見る見るうちに黒煙が工場一体を含め真っ黒な煙に見えなくするようにした。しかし、真っ暗な工場一体をB29は容赦なく爆弾をばら撒いた。

B29は、約1万メートルの上空を飛ぶ。しかし陸からの砲弾は全く届かない。1トンクラスの爆弾を積んでいたB29は、帰るために機体の重量を軽くしなくてはならず、どこでも爆弾を投下した。8回近くの空襲を受けた…死体は、原形がないほど木端微塵に吹き飛ばされた……

毎日が辛かった。厳しい教育、軍人勅諭、教育勅語……食べるものもない… 苦しくても自らの命を絶つことはできない非国民になる……苦しい

8月15日終戦 3時に起床 校庭で敗戦のことば… しかし、敗戦は中国人から伝わっていた

8月9日昭和製鋼所も技術者も進駐したソ連軍に接收された。

私は負傷した人たちを病院まで運ぶ係だった。

(戦争って何だ! 原爆が落とされたから今の平和があるのか 広島や長崎の犠牲があつて、今の平和があるというのか 平和とは何だ! 戦争がなければ平和はないのか 本当の平和って何なのだ…模索したがわからなかった)

昭和21年7月帰国する

奉天から貨車に乗って、アメリカの船で帰った…やっと島根県の灯台が見えた…京都府の舞鶴港へ着いたが…船内で赤痢が発生し1週間ほど船の中にいた。

日本に上陸した 宿舎に 人間らしい生活ができる!?

昭和22年4月に北海道に帰る (帰っても働く所などない)

// 8月には炭鉱で働く

// 国鉄に入社

昭和24年芦別の国鉄職員になった(国鉄の首切りがあつたが転職を断つたためだ…)

私は生活するため何でもした。根性があれば人は何でもできるはずだ。1対1では喧嘩に負けない!気持ちでは負けたくないからだ。

私は病氣らしい病氣をしたことはない。小さい頃、腸チフスにかかったことがあるが、そのおかげで?免疫力もでき、発疹チフスにもかかからなかった…



私は今年4月で90歳を迎える。

ことぶき大学で8年間を過ごした。第2研究生として最後のことぶき大学の生活を終えようとしている。

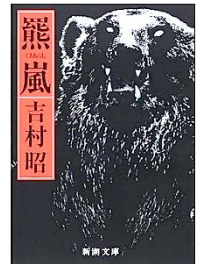
カラオケは健康に大変いい、体は弱ってはきているが、背筋をピンとし、毎日笑顔を忘れなければ、人生は最高に楽しいものだ。

今の国際社会や日本の政治、ことぶき大学の事や富良野の市政については、言いたいことは山ほどある。もっともっといい街づくりができるはずだと…

うるさい人間のようにだが、頑固な自分だとは思っていない。ただ、言いたいのは、現状に満足するなということだ。わがままな生き方で文句や批判をするのではない。自分に甘えることなく、将来を見据えた中で、より善く生きることが必要だと思うのだ。

三浦綾子文学で「塩狩峠」だが、私は、国鉄マンとして言えることがある。宗谷本線塩狩峠駅、名寄発旭川行の上り列車が連結を外れて暴走するような急こう配の場所が塩狩峠付近にはなかったということだ…

まあいろいろ異説があるようだが、小説なのだからある程度事実とは異なることがあるかもしれないが、私としては認めるわけにはいかなかった。だからそう言ったまでだ。(研修:三浦綾子記念文学館にて…)



一昨年の研修旅行では、苫前の研修旅行だった。本当に残念ながら調子が悪くて行けなかった。

例の「熊事件」だが、『熊嵐』(くまあらし)は、1977年(昭和52年)に新潮社から出版された吉村昭の小説だ。これは、ヒグマが開拓民を襲った三毛別熊事件をモデルにした作品である。

三毛別熊事件(さんけべつひぐまじけん)とは、1915年(大正4年)12月9日から12月14日にかけて、苫前郡苫前村三毛別(現:苫前町三溪)六線沢で発生したクマの獣害としては日本史上最悪の被害を出した事件だ。

エゾヒグマが数度にわたり民家を襲い、開拓民7名が死亡、3名が重傷を負った。事件を受けて討伐隊が組織され、問題の熊が射殺されたことで事態は終息した。

この現場は、私が住んでいた古潭別から車で20分のところだ…

古潭別駅か……

シラミの佃煮ができるくらい頭から足の先までシラミだらけ、食べ物がなく、弁当も持たないで毎日通った学校、昼はただ座っていただけだ。

朝の3時から夜の8時まで中国の広大なネギ畑で背伸びができないほど毎日働いたこともある。背伸びをすると怠けていると思われるからだ…

柿の皮を食べ、「わかごも」を毎日食べた。「わかごも」とは新芽を出したばかりの「マコモ」イネ科の多年生植物だ。

私は痩せてはいたが健康だった。

そんな時代だ。そんな時代だから仕方がないことだとは思っていないが、今ある生活がいかに便利なのか、いかに恵まれているのかを自覚しつつ、自分に厳しく、人には優しくできる人間にならなくてはならないはずだ。

今の生活に満足するのではなく、満足することの意義を考え、満足したいがゆえに一生懸命働き、妻を愛し、人を愛し続ける一人の人間にならなくてはいけないのではないだろうか。

おせっかいな老人の一人ごとだと思ってほしい……

皆さんには大変お世話になりました。

ことぶき大学には、たまに(しょっちゅうかも)顔を出しますので、皆さんと一緒に歌でも歌いましょう……バイバイ